

# エコアクション21

## 2023年度環境経営レポート

発行日 2024年3月21日

改訂日 2024年5月15日

改定日 2024年8月21日

レポート対象期間 2023年3月 ~ 2024年2月

有限会社 城陽産業



エコアクション21<sup>®</sup>  
認証番号 0008303



カワガラス

[目次]

表紙	1
目次	2
1. 事業概要	3
1) 事業者名及び代表者名	3
2) 所在地	3
3) 環境管理責任者及び事務局	3
4) 連絡先	3
5) 事業活動の内容	3
6) 適用事業範囲	3
7) 事業規模	3
8) 施設等の状況	3
9) 産業廃棄物許可証の内容及び許可番号	4
10) 廃棄物の処理料金	4
11) 環境関連技術資格の名称と取得人数	4
12) E A 2 1 推進組織図	5
2. 環境経営方針・環境経営目標	6～7
3. 2023年度環境負荷の調査結果と取組状況まとめ	7
4. 2023年度実績（運用期間 2023年3月～2024年2月）	8～10
5. 主要な環境経営計画取組み結果の考察	10～12
6. 次年度以降の取組み内容	13
7. 環境関連法規への違反、訴追等の有無	13
8. 代表者による全体評価と見直し・指示	14

## 1. 事業概要

- 1) 事業者名称及び代表者名  
事業者名称：有限会社城陽産業  
代表者名：代表取締役 浦上富廣  
設立日：昭和44年 4月1日  
資本金：500万円
- 2) 所在地  
本社  
〒671-0101  
兵庫県姫路市大塩町2162
- 3) 環境管理責任者及び事務局  
環境管理責任者：代表取締役 浦上富廣  
環境事務局：湯口正文
- 4) 連絡先  
連絡担当者：(環境事務局) 湯口正文  
TEL：079-247-9652  
FAX：079-247-9653
- 5) 事業活動の内容  
産業廃棄物の収集運搬  
製鋼原料売買  
製紙原料売買  
清掃業務  
設備の据え付け・移設・撤去
- 6) 認証・登録事業範囲  
登録事業者名：有限会社城陽産業  
対象事業所：本社・工場  
対象とする活動：(事業活動の内容と同じ)

### 7) 事業規模

活動規模	単位	2009年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
処理量	t	3,718	1,864	2,504	2,512	2,217
売上高	百万円	160	124	181	176	198
従業員数	人	13	9	10	9	7

### 8) 事業年度

3月～翌年2月

### 9) 施設等の状況

#### ○収集運搬車両等

- ・8t車クレーン付ダンプ 1車
- ・4t車ヒヤブクレーン付き平ボデー 1車
- ・4t車クレーン付き平ボデー 2車
- ・3t車ヒヤブクレーン付きダンプ 1車
- ・2t車平ボデー 1車
- ・営業車 1車
- ・軽トラック 1車

#### ○その他車両

- ・フォークリフト 5台
- ・ショベルローダー 1台

#### ○計量器

- ・台秤(最大計量容量5t) 1台

9) 産業廃棄物許可証の内容及び許可番号

許可 県市名	事業の区分	許 可 番 号	事 業 の 範 囲	許 可 年月日	許 可 有効期限
兵庫県	産業廃棄物 収集運搬業	02802012453	汚泥（水銀含有ばいじん等を含む）、廃油、 廃プラスチック類（石綿含有産業廃棄物を 含む）、紙くず、木くず、繊維くず、金属 くず、ガラスくず・コンクリートくず及び 陶磁器くず（石綿含有産業廃棄物を含む）、 がれき類（石綿含有産業廃棄物を含む）  上記については水銀使用製品産業廃棄物 を含む。	R1.07.27	R6.07.26

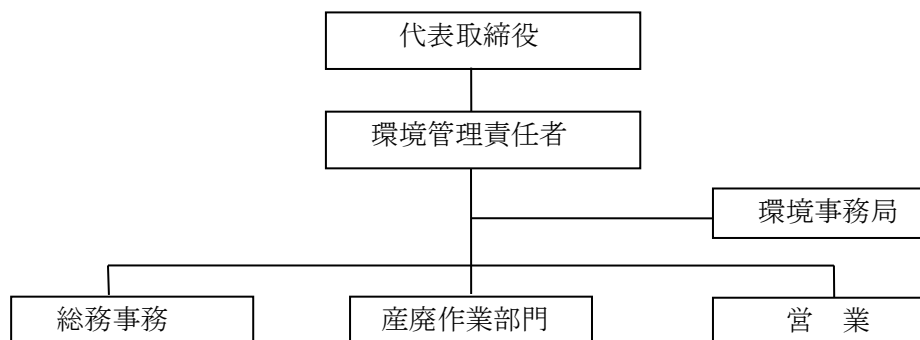
その他の許可内容 古物商許可（兵庫県公安委員会） 第631609000052号  
 公布日 H2. 7. 13  
 変更日 R2. 3. 9  
 金属商許可（兵庫県公安委員会） 第1600100001号  
 許可・公布日 H13. 6. 1  
 変更日 R2. 3. 9

10) 廃棄物の処理料金：別途見積書による  
 （廃棄物の種類、数量、荷姿、性状等により、処理料金が異なる為）

11) 環境関連技術資格の名称と取得人数

大型運転免許	3人
中型運転免許	3人
大型特殊運転免許	2人
移動式クレーン運転免許	4人
小型移動式クレーン運転技能講習修了	4人
玉掛技能講習修了	3人
ガス溶接技能講習修了	2人
フォークリフト運転技能講習修了	5人
ショベルローダー等運転技能運転修了	1人
フロン回収技術講習修了	1人

1 2) E A 2 1 推進組織図



	役割・責任・権限
代表者 (代表取締役)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営に関する統括責任</li> <li>・環境経営システムの実施に必要な、人、設備、費用、時間、技能、技術者の準備</li> <li>・環境管理責任者を任命</li> <li>・代表者による経営における課題とチャンスの明確化</li> <li>・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知</li> <li>・環境経営目標設定の承認</li> <li>・代表者による全体の評価と見直し・指示を実施</li> <li>・環境経営レポートの承認</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営システムを構築し、実施し、管理</li> <li>・法規制登録簿の承認</li> <li>・環境経営計画書の承認</li> <li>・環境経営の取組み結果の代表者への報告</li> <li>・環境経営レポートの確認及び地域事務局への送付</li> </ul>
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境管理責任者の補佐、E A 2 1 推進委員会の事務局</li> <li>・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施</li> <li>・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成</li> <li>・環境経営活動の実績集計</li> <li>・環境関連法規等取りまとめ表の作成</li> <li>・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施</li> <li>・環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li> <li>・環境経営活動の取組結果を代表者へ報告</li> <li>・テスト、訓練の実施のフォロー</li> <li>・従業員に対する教育訓練計画の作成とフォロー</li> <li>・環境経営レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）</li> </ul>
部門長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自部門における環境経営システムの実施</li> <li>・自部門における環境経営方針の周知</li> <li>・自部門の従業員に対する教育訓練の実施</li> <li>・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告</li> <li>・特定された項目の手順書作成及び運用管理</li> <li>・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成</li> <li>・テスト、訓練を実施、記録の作成</li> <li>・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚</li> <li>・決められたことを守り、自主的・積極的に環境経営活動へ参加。</li> </ul>

## 2. 環境経営方針

### 2023年度環境経営方針

作成 2020年4月10日 改定日 2022年7月27日

代表取締役 浦上富廣

#### 基本方針

有限会社城陽産業は、企業理念に基づき全ての業務を通じて省エネルギー、省資源、リサイクルの推進、廃棄物削減を自主的、積極的、継続的に推進し、地球環境の保護に努める。その為には自社の環境保全意識とリサイクル技術を持った熟練技術者を生かし育てて継続的改善を進め社会に貢献する。

#### スローガン

「地球環境を守る」を基本に一人ひとりが責任を持ち積極的に行動する。

#### 重点活動

- 1) エコアクション21マネジメントシステムを円滑に運用する。そのためエコアクション21事務局を設置し、関連する諸問題を協議し解決する。
- 2) 自社の課題とチャンス等を常に考慮して活動項目に生かすこと。
- 3) 従業員に対して朝礼、研修等を通じて、環境経営方針、環境経営計画などについて周知徹底を図る。
- 4) 環境関連法規、及びエコアクション21の要求事項を遵守する。
- 5) 収集運搬業務、及び外部請負業務等においては、常に環境への配慮を行う。
- 6) 以下を活動の項目とし、環境負荷の低減を図るため、具体的数値目標を定め、実施評価、見直しを行い、継続的な活動に取り組む。
  - ①省エネルギー活動を推進し二酸化炭素排出量の削減
  - ②化学物質の適正管理
  - ③廃棄物の削減とリサイクル化を推進、及び適正管理
  - ④受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮
  - ⑤地域社会活動に貢献
  - ⑥水道水、LPGの使用量削減への維持管理活動

—この環境経営方針は、全従業員に周知徹底するとともに、社内外に公表する—

#### 2-1 2023年度環境経営目標

P7 3項の2022年度の環境への負荷、及び環境へ取組み状況まとめにより、基準年度2019年度を元にウイズコロナを考慮して2023年度の目標値を設定した。

取組み項目		基準年度値 (2019年度)	2023年度目標 2023年3月 ～2024年2月
二酸化炭素排出量の削減 基準年度比△1.5% (LPGは対象外)  注意 原単位は 軽油使用量% / 売上高(万円) 原単位基準年度 2020年度	電力使用量の削減 (kWh)	4,537kg-CO <sub>2</sub> (13,585)	4,469kg-CO <sub>2</sub> (13,381)
	軽油使用量の削減 注 軽油は原単位で管理 (L)	原単位0.655 21,329kg-CO <sub>2</sub> (8,127.0)	原単位0.646 21,009kg-CO <sub>2</sub> (8,005.4)
	ガソリン使用量の削減 (L)	4,677kg-CO <sub>2</sub> (2,014.6)	4,607kg-CO <sub>2</sub> (1,984.4)
	ガス使用量の削減 (kg) 維持管理	65kg-CO <sub>2</sub> (21.7)	65kg-CO <sub>2</sub> (21.7)
二酸化炭素排出量の合計		30,609	30,150
水道使用量の削減 (m <sup>3</sup> ) 維持管理		維持管理活動	参考 72m <sup>3</sup>
化学物質の使用量の削減・適正管理		燃料の漏れ、塗料溶剤 の蓋閉め忘れ 0件	燃料の漏れ、塗料溶剤 の蓋閉め忘れ 0件

廃棄物分別によるリサイクルの向上	2019年度より 全廃棄物85%以上 2022年度見直し 自社発生分60%以上 (自社産廃22年12月見直し)	選別方法見直しによる再資源化量拡大 全廃棄物85%以上 自社産廃分60%以上 自社一廃分80%以上
受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮 収集運搬時の飛散、漏洩の防止	収集飛散、漏洩 事故 0件	収集飛散、漏洩 事故 0件
地域社会への貢献	不定期に周辺の清掃実施	事業所周辺の定期 清掃 1回以上/月

※1 電力の二酸化炭素排出係数 関西電力(株) 2018年度公表値 CO<sub>2</sub>調整後排出係数 0.334kg-CO<sub>2</sub>/kWh

### 3. 主な環境負荷の実績

2023年度の環境負荷削減の目標及び環境活動を策定する為、過去2年間の「環境への負荷の自己チェック表」及び「環境への取り組みの自己チェック表」の調査結果のまとめは下表の通りです。

(電力購入先：関西電力 2018年度公表値 CO<sub>2</sub>調整後排出係数 0.334kg-CO<sub>2</sub>/kWh)

環境への負荷の自己チェック表

(集計期間 2021年度～2022年度) 2023年度の実績を比較の為表記

		単位	2019年度	2021年度	2022年度	2023年度	
温室効果 ガス排出量	二酸化炭素	Kg-CO <sub>2</sub>	33,302	32,723	31,520	31,280	
受託した 産業廃棄 物の処理 量	収集運搬量	t	1,139	2,504	2,512	2,217	
自社発生 産業廃棄 物排出量	再資源化量	t	不明	165.70	130.39	114.79	
自社発生 一般廃棄 物等総排 出量	再使用	t					
	再生利用	t	0.184	0.17	0.13	0.15	
	熱回収	t	0.022	0.023	0.024	0.016	
	単純焼却	t					
	その他	t					
	最終処分量	t					
総排水量	公共水域	m <sup>3</sup>	82.58	76.03	83.81	88.6	
水資源投 入量	上水	m <sup>3</sup>	64.78	69.86	76.81	79.48	
	地下水	m <sup>3</sup>					
	雨水	m <sup>3</sup>	7.8	8.8	7.0	9.2	
総エネル ギー投入 量	購入電力	kWh	13,584	13,058	14,184	13,373	
	使用量内訳	ガソリン	リットル	2,014	872.8	739	624.6
		軽油	リットル	8,714	9,994	9,511	9,626
		LPG	kg	21.68	35.78	35.47	34.22

4. 2023年度実績（運用期間 2023年3月～2024年2月）

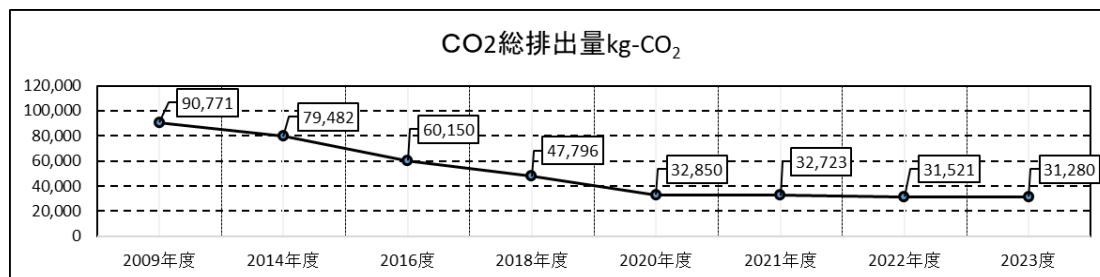
環境経営目標に対する達成状況は下記の通りです。

達成率の計算は右記の式を使用する。 達成率 = (1 - (実績値 - 目標値) / 目標値) × 100  
 温室効果ガス総排出量の推移（2012年5月認証・登録）

注意 各年度とも電力のCO<sub>2</sub>調整後排出係数は0.334kg-CO<sub>2</sub>/kWhで計算しています。

1) 事業活動による二酸化炭素総排出量削減 関連SDGsターゲット 13.3

取組み項目	2023年度目標	2023年度実績値 (3月～2月)	達成率	評価
エネルギー使用量削減による二酸化炭素排出量削減	30,150 kg-CO <sub>2</sub>	31,280 kg-CO <sub>2</sub>	96.3 %	未達成



1) - 1 電力使用量の削減 関連SDGsターゲット 7.3

取組み項目	2023年度目標	2023年度実績値 (3月～2月)	達成率	評価
使用量の削減	13,381 kWh	13,373 kWh	100.1 %	達成
CO <sub>2</sub> 排出量の削減	4,469 kg-CO <sub>2</sub>	4,466.7 kg-CO <sub>2</sub>		

1) - 2 ガソリン使用量の削減 関連SDGsターゲット 7.3 12.2

取組み項目	2023年度目標	2023年度実績値 (3月～2月)	達成率	評価
使用量の削減	1,984.4 リットル	624.6 リットル	168.5 %	達成
CO <sub>2</sub> 排出量の削減	4,607 kg-CO <sub>2</sub>	1,450 kg-CO <sub>2</sub>		

1) - 3 軽油使用量の削減 関連SDGsターゲット 7.3 12.2

(取組み項目：原単位の低減 軽油使用量/売利上げ高)

取組み項目	2023年度目標	2023年度実績値 (3月～2月)	達成率	評価
原単位の低減 基準年度(2020年) 原単位の△1.5%	0.646 リットル/万円	0.486 リットル/万円	124.8 %	達成
使用量の削減 ※2	8,005.4 リットル	9,625.5 リットル	79.8 %	未達成
CO <sub>2</sub> 排出量の削減	21,008.9 kg-CO <sub>2</sub>	25,260.7 kg-CO <sub>2</sub>		

※2 軽油使用量は、業務量（収集運搬量）に大きく影響され、軽油量削減をメインの削減目標とはできない。ゆえに売上高当たりの軽油使用量で表される原単位低減を目標としている為参考値とする。



1) - 4 LPG使用量の削減（維持管理に見直し） 関連SDGsターゲット 7.3 12.2

取組み項目	2023年度目標 参考目標値	2023年度実績値 (3月～2月)	達成率	評価
使用量の削減	21.7kg	34.2kg	42.3%	未達成
CO <sub>2</sub> 排出量の削減	65.1 kg-CO <sub>2</sub>	102.7 kg-CO <sub>2</sub>		

2) 水道使用量の削減（維持管理に見直し） SDGsゴール及びターゲット 6 12.2

取組み項目	2023年度目標 参考目標値	2023年度実績値 (3月～2月)	達成率	評価
使用量の削減	72.0 m <sup>3</sup>	79.48 m <sup>3</sup>	89.6%	未達成

水道水使用量は2021年度にアルバイト人数の増加の為に目標値を見直した

3) 化学物質の使用量の削減・適正管理

取組み項目	2023年度目標 参考目標値	2023年度実績値 (3月～2月)	達成率	評価
燃料の漏れ、塗料、溶剤の蓋を閉め忘れ 0件	漏れ閉め忘れ発生件数 0件	漏れ、閉め忘れ発生件数 0件	100.0%	達成

4) 選別とリサイクルの推進 関連SDGsターゲット 12.5

リサイクル率 (全収集運搬量－埋立向量) / 全収集運搬量 × 100

取組み項目	取組み結果	評価
趣旨説明と現状調査	・全員に趣旨説明と現状作業の確認を指示	達成
改善案作成	・金属と樹脂の混合物のリサイクル化	達成
実施及び実施結果確認と見直し 2023年度目標値 85%以上	・発生量の少ない廃棄物でもリサイクル化取り組み実施 年間リサイクル率99.33% リサイクル量2,202t/全収集運搬量2,217t(年間)	達成
取組みの定着	・処理可能な収集物の分別を徹底	達成
取組みの結果確認と改善案作成	・定期的な現場確認とフォロー実施	達成

5) 収集運搬時の飛散漏洩防止 関連SDGsターゲット 11.6 12.4

取組み項目	取組み結果	評価
漏洩事故の防止	容器の密閉、転倒防止対策確実実施 事故0件	達成
飛散事故の防止	シート、ネットによる養生確実実施 事故0件	達成

6) 自社発生産業廃棄物、一般廃棄物適正管理によるリサイクル率の向上

関連SDGsターゲット 12.5

取組み項目	取組み結果	評価
適正管理による リサイクル率の向上 産廃目標：60%以上参考 一廃目標：80%以上	取組み初年度の取り組み 現状の把握と取組結果 産廃リサイクル率 100.00% 一廃リサイクル率 90.47%	達成

7) 地域社会活動に貢献する SDGsターゲット 14.1

取組み項目	取組み結果	評価
趣旨説明と現状調査	・趣旨説明の実施	達成
清掃予定場所の設定と実施	・清掃日を決めずに不法投棄ごみ発見時に回収	達成
問題点の把握と改善案作成	事業所前の道路は放置ごみを見つける都度新たなごみを呼ばないように回収することになっている。	達成

5. 主要な環境経営計画取組み結果の考察

事業活動による環境負荷を低減する為、事務局で進捗状況をフォローし、定期的な環境教育時にグラフ化した資料により変化点の説明等わかり易く説明と掲示をすると共に、環境教育の中で収集運搬時の注意事項の説明をすることで環境汚染防止への意識向上を図った。それらの結果、収集運搬中の飛散、漏洩事象がE A 2 1 認証以降は一度も発生していないのは一番の効果だと判断している。

ウイズコロナからアフターコロナに変わろうとしている時期であり、影響も少なくなり業務量も戻ってきた。

年間の取組み結果もCO<sub>2</sub>年間排出量は達成率96.3%と僅かに未達成。電力量使用量はコロナ禍と同様程度の電力使用量となりE A 2 1 取組期間を通じて最小レベルで推移している。収集運搬量、及び取引先見直しの減少もあり軽油、ガソリン使用量とも大幅に減少し、年間総CO<sub>2</sub>排出量は2009年度比で約34%となっている。

各取組みの詳細は下記の通りとなっている。

1) 二酸化炭素排出量の削減

年間総CO<sub>2</sub>排出量は達成率96.3%と僅かに未達成となる。これは収集運搬距離減少の影響もあり大幅な軽油使用量が最低水準で推移していることが総CO<sub>2</sub>排出量の低減に結びついていると判断する。

(1) 電力使用量の削減

エアコンは昨年度に事務所エアコンを効率が良いタイプに更新した効果もあり、目標値をクリアできた。数年前より作業者の安全衛生面を考慮して常時運転を行い、夏季には屋外の作業場にミスト噴霧装置を取り付けた扇風機を運転して電力を消費している。

○2022年度に取り組んだ削減取組み内容

・冷暖房時のエコ運転設定継続（室温：冷房時26度以上 暖房時22度以下）

(2) ガソリン、軽油使用量の削減

ガソリン使用量は達成率168.5%と大幅達成、軽油使用量は2019年度頃（コロナ禍初期）から収集運搬量の減少傾向、及び、当社はリサイクル特化することを進めている為、選別してリサイクル不可の排出物は他の専門業者に紹介したことで走行距離が減少、及び運行管理の適正化等の取組みでなんとか目標値に近くになっている。

取組み内容

○エコドライブの推進

エコドライブについて、ミーティングの度に教育を行っている。今後も継続してエコドライブへの呼び掛けを行う。

○適正運行管理による運送効率のUPで軽油の原単位の良くする

燃料の削減を図る為、収集運搬と客先積み込み場の管理業務を出来るだけ同じタイミングで行い、空車での走行距離を削減する取組みを継続し業務の改善を進めて来た。又、遠距離取引先の見直しを実施した。

原単位が悪くなっている月は事業所内で使用するリフト、ショベルローダー

用の軽油をドラム缶で一括購入している為悪くなっている。

(3) LPG使用量の削減（維持管理活動）

LPG使用量は事業所内作業場の作業量の増加で手洗い等も多くなり使用量が増加した。

2) 水道水使用量の削減（維持管理活動）

11月度に13.61m<sup>3</sup>と異常値が出て確認したところ冬季に入り野鳥の糞による営業車の糞の洗浄で水道水を多量に使っていた。それ以外にも調査をしたところトイレの洗浄用タンクの部品不具合による漏水が後日見付き修理をした。

○今後の対応

- ・1回/月の検針で漏水の確認をしているがそれ以外にも水道メーターの確認で漏水の有無を確認するようにして、漏水発生期間から対応迄の期間を短くし漏水量を減らすようにする。

○その他の取組み内容

- ・設備の点検、早めの整備を図り、水栓の閉め忘れが無いように周知
- ・洗車の方法、回数、タイミング等の工夫で水使用量の節減
- ・代替水活用による水道水の節減（緑地への灌水は雨水の再利用等）

3) 化学物質の適正管理

日常より燃料漏れの防止、塗料未使用時の塗料缶の蓋の徹底を指導している為化学物質の漏洩、大気への放出防止は確実に実施されている。

又、P R T R法対象の指定化学物質は、少量購入している塗料、及び燃料に含まれている以外に購入実績はありません。

4) 廃棄物の削減とリサイクル化の推進

収集運搬量はウイズコロナの時期に入り収集運搬量もコロナ前より少し減少しているが安定して来ている。埋め立て向け廃棄物の収集運搬量の引き受け量を減らしてきているのでリサイクル率は高い値（平均99%）で推移している。

○変化点

- ・埋め立て向けの廃棄物の取扱量を削減する方向で進めてきた。
- ・廃棄物（主に金属スクラップ類）の分別作業の手順書による教育  
新規採用従業員への分別作業の指導の徹底でスクラップ類の分別作業の効率化を図る

○継続事例

- ・商品別に写真掲示で選別工程の効率UP（24種類の表示）
- ・SUSと樹脂複合物は溶解する事で、双方のリサイクル化を実施
- ・金属スクラップを分解し複合金属の選別とリサイクル率UPを継続実施

5) 自社発生各廃棄物の削減リサイクル率について

○一般廃棄物の削減とリサイクルについて

新聞紙、雑誌類は最低限の購入量で有り、封筒類も不要となった時点で再資源化している。焼却処理する可燃ごみは最低限となっていると判断している。

・今後の取り組み

- プレビュー画面等のパソコン画面上で入力ミス確認、校正を行う
- ペーパーレス化を進めて行く
- コピー用紙の裏面使用と不要書類の原料化

○自社発生産業廃棄物の削減とリサイクルについて

自社発生産業廃棄物はスクラップ回収時にパレット（木製、プラスチック製）に載せてある場合が多く、金属以外の材料で組み立てられている場合が非常に多

い。 又、請負工事はその都度発生する廃棄物の種類が変化する為、自社で発生量をコントロールすることは難しい。

・変化点 リサイクル目標値 ⇒ 2022年度12月度より60%に見直し済

・今後の取り組み

確実な選別でリサイクル率を向上させる取り組みを進める。

6) 受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮

受託した廃棄物の収集・運搬は飛散、漏洩事故もなく安全、適正に処理が出来た。

7) 緊急事態対応訓練

2024年1月度に能登半島地震が発生した。当社は海岸近くに位置する為、急遽、津波・地震発生時に対する緊急事態対応訓練を行うことにした。

○緊急事態対応訓練実施内容

資料等を用い日常の燃料、塗料等の管理、発生時の各自の動き、連絡方法等を確認した。

効果：自分達へもいつ災害が起きるかわからない、我がこと家族のこととして真剣に考える機会になったと判断している。

8) 地域社会活動に参加する

○事業所周囲の定期清掃

事業所の近辺は不法投棄を発見の都度回収を行い不法投棄の呼び水となるのを防ぐ様になっている。時々、住民が周辺の道路の清掃をしており、これらの活動で不法投棄の減少した

継続事例

- ・ゴミが多い場合は部分的に清掃を実施する。
- ・春、夏場の行楽客からの放置ゴミが多いときは頻度を増やす。
- ・出勤後のパトロールを兼ねて放置ごみの回収を実施する。



清掃活動の様子

6. 次年度以降の取り組み内容

6-1 2024年度環境経営目標（基準年度2019年） 電力のCO<sub>2</sub>排出係数 0.311 kg-CO<sub>2</sub>

○各エネルギー使用量の削減により二酸化炭素排出量を削減する 二酸化炭素総排出量目標 29,691kg-CO <sub>2</sub> /年以下			
エネルギー削減項目	・電力使用量の削減	基準年度の△2%減	13,313kWh以下
	・ガソリン使用量の削減		1,974.3%以下
	・軽油使用量の削減	基準年度の前年度の△2%減 ※基準年度：2020年度	目標前年度0.642 (軽油%売上高万円)以下
	・プロパンガスの削減	無駄な使用を止める	
○節水による水使用量の削減			
	・代替水活用による水道水の節減	節水に努める	
○化学物質の使用量の削減・適正管理			
	・燃料の漏れ防止、塗料、溶剤容器の蓋	漏れ防止、不要時は蓋	
○選別、リサイクルの徹底で廃棄物削減			
	・選別方法見直しによる再資源化量拡大 ・リサイクルアイテムの開発でリサイクル率UP	リサイクル率目標 産廃：85%以上 自社産廃：60%以上 自社一廃：80%以上	
○受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮			
	・収集運搬時の飛散、漏洩の防止	飛散、漏洩事故ゼロ	
○事業所周围の定期的清掃作業			
	・従業員による事業所周围の定期清掃	1回以上/月	

6-2 2025年度～2027年度までの中長期の環境経営目標

○各エネルギー使用量削減目標 各年度の削減率 基準年度（2019年度）に対して 電力・ガソリン・軽油（参考目標） 2024年度：2.0% 2025年度：2.5% 2026年度：3.0% 2027年度：3.5% LPGは維持管理活動（無駄な使用を止める）とする			
○水道使用量削減	維持管理活動（節水に努める）とする		
○化学物質の使用量の削減・適正管理	燃料の漏れ防止	漏洩事故件数0件	
	塗料、溶剤容器の蓋	確実に閉める	
○リサイクルの徹底で廃棄物削減	取り組み定着 適正管理で再資源化量の拡大		
	リサイクル率	全廃棄物：85%以上	自社産廃：60%以上参考 一廃：80%以上
○収集運搬時の飛散、漏洩事故防止	飛散、漏洩事故件数	0件	
○事業所周围の定期清	従業員による清掃	1回以上/月	

7. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社に関連する主な法規制は下記の通りであり、それらの遵守状況の確認を今回（2024年3月19日）実施したが全て遵守されており、関係機関からの指導、勧告、訴訟、及び外部からの苦情等もありませんでした。

主な適用法令名	遵守すべき要求事項	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 県条例・市町村条例	・産業廃棄物の収集運搬業許可の有効期限遵守 ・マニフェストの管理、保管	遵守
自動車NO <sub>x</sub> ・PM法	自動車NO <sub>x</sub> ・PM法の排出基準を満たした車両を運行	遵守
古物営業法	標識掲示・帳簿管理・その他法令の遵守	遵守
兵庫県金属くず営業条例	標識掲示・帳簿管理・その他条例の遵守	遵守

## 8. 代表者による全体評価と見直し・指示

今回、エコアクション21認証後12年目の取り組みであり、年間を通じて産業廃棄物処理業者向け2017年版ガイドラインに合わせて活動を行った。

2023年度は新型コロナウイルスの影響も軽減してきており収集運搬量、及び他の業務量も2021年度から持ち直してきた。軽油のまとめ買いで原単位が悪くなっている月も3ヶ月程あったが維持管理目標以外の取り組みは目標値を達成できた。

### ○温室効果ガス排出量抑制関係について

年間総CO<sub>2</sub>排出量の削減取り組みでは達成率96.3%と僅かに未達成となる。

- ・電力使用量削減取り組みは目標値と比較して達成率100.1%と達成できた。
- ・軽油原単位は事業所内の車両向けで軽油をドラム缶での購入で12月度は悪くなったが適正運行管理により結果的に原単位は達成率124.8%とクリア出来た。

アフターコロナに入り収集運搬量の変動及びスクラップの相場の変動は続くかと判断しており、原単位目標は落ち着くまで様子を見て見直しも考える。

### ○廃棄物の削減とリサイクル取り組みについて

- ・産業廃棄物収集運搬量は昨年度に続き2年間安定して来ている。年間リサイクル率は約99.3%と順調で推移しているが、リサイクル率の向上は限界になってきている。その中で自社発生の産業廃棄物については作業内容により廃棄物の種類が大幅に変化する為リサイクル率は大幅に変化している。

今後も産業廃棄物についてはリサイクルのアイテムを増やして提案し発生した時点での分別による収集運搬が重要となっている。

### ○環境法令関係改訂情報、その他の情報の入手について

重要な環境関連情報は業界の研修会で改訂に基づく情報が入っている。

その他は新聞、インターネット、業界からの情報、及び環境法令情報サイトからの改訂情報を活用して「環境関連法規等の取りまとめ」を行っている。

### ○「環境経営システム」の各要素について

産業廃棄物処理業者向け2017年版ガイドラインによる5年目の取り組みとなった。電子データによる審査書類提出へと仕組みが変わったことで書類作成、提出の工数が大幅に減ったことは弊社にとっても紙の文書記録類の大幅削減になっていると評価している。

### ○環境経営方針・目標及び実施体制について

環境経営方針及び実施体制については変更の必要はないが、環境経営目標・計画については、軽油の原単位目標及び電力の二酸化炭素排出係数などを見直すこと、それ以外にも運用状況を見て、変更が必要となれば次年度に反映すること。

2024年3月12日

代表取締役 浦上富廣